

■野口日宇満宣教師・野口佳奈宣教師定期帰国のご報告

6月8日から8月15日、野口両宣教師がインドネシアから定期帰国をいたしました。今年は新型コロナウイルスの感染予防のため、集まる形での帰国報告会を開くことはできませんでしたが、活動報告ビデオを作成し、インターネット配信、DVDにて分かち合うことといたしました(別紙案内をご参照ください)。



限られた中ではありましたがこの間、宣教部との協議、国外伝道専門委員、女性連合や理事会での懇談、宣教研究所の研修、また滞在地から車で行ける範囲での教会での礼拝奉仕、西南学院大学のチャペルなどの働きを通して、働きの紹介、祈りの分かち合いがありました。みなさまのお祈りを感謝いたします。

インドネシアは日本と同様コロナ危機の中にありますので、定期帰国を終えて再渡航するにあたり、現地でのリスクや働きなどさまざまな観点から検討いたしました。検討にあたった専門委員会議や常任理事会では慎重な意見もありましたが、派遣する側の責任として今後の対応に万全を期すこととし、インドネシアへ再び送り出すことといたしました。野口両宣教師とご家族は8月15日に日本を発ち、17日に無事スマランに到着したとの報告が両宣教師より届いています。所属するチャンディ・バプテスト教会は感染対策をしながら礼拝が再開されています。また日宇満宣教師の働くバプテスト神学校ではインターネットでの授業を続けています。コロナ危機のなかでインドネシアの方々の命が守られるよう、また、インドネシア・バプテスト教会連合(GGBI)の諸教会の働き、および、インドネシアの方々と苦難を共にしながら共に生き礼拝をささげる宣教師の働きを覚えてお祈りください。

■インドネシア・バプテスト教会連合(GGBI)

49周年記念礼拝へのJBC祝辞依頼

インドネシア・バプテスト教会連合(GGBI)は、この8月12日に49周年を迎え、30日に感謝礼拝を捧げます。GGBIから日本バプテスト連盟(JBC)に祝辞のご依頼があり、加藤誠理事長のビデオメッセージをお送りしました。



GGBIはインドネシア全土に650の教会・伝道所があり、信徒は約5万人です。1951年に米国南部バプテスト連盟より宣教が始められ、1971年に連合として結成されています。JBCはGGBIと1981年に宣教協約を結び、浅見祐三宣教師・浅見鈴子宣教師(1983~1990年)、木村公一宣教師・木村おっちょ宣教師(1986~1997年)、野口日宇満宣教師・野口佳奈宣教師(2014年~)の派遣を通して、主の福音宣教のために共に働いてきました。近年ではアジア・太平洋のつながりの中で被災地支援の働きと支援も共にしています。コロナ危機のため3月に計画していた総会・信徒大会が延期となっており、苦闘の中にありつつ教会間の励ましを強めているとお聞きしています。GGBIがJBC諸教会を宣教パートナーとして覚えて下さることを感謝します。

■アジア・太平洋バプテスト連合(APBF)を覚えて

日本バプテスト連盟も加盟しているアジア太平洋バプテスト連合(APBF/22か国、63団体、33,000教会)では、2019年より8月第3日曜日「APBFサンデー」として、それぞれの加盟国をおぼえて祈る時を持っています。テーマは「共に祈る力」、聖書は「マタイ18:18-20、26:39」です。英語ですが、APBF会長・常務理事のメッセージ、祈りの課題を日本バプテスト連盟HPでご覧いただけます。

各国からの祈りの課題にはコロナ危機の中で起こってきていることや災害被害からの回復があり、アジア・太平洋、そして世界と連帯する課題だと知らされます。8月は特にアジア・太平洋戦争における日本の加害と敗戦、それによるアジアの解放を覚える月ですが、APBF加盟団体に受け入れていただいていることを感謝し、これからも連盟が和解のつとめに仕えていけますようにと祈りを合わせます。

